ファーストリテイリンググループ　生物多様性保全方針

１．基本認識

生物多様性は、衣食住を含む私たちの社会の基盤を支えています。ファーストリテイリングの事業も、綿花などの作物を育てる土壌、森林や湿地が貯留する水、ウールを作るための羊の放牧に必要な牧草地など、生物多様性に支えられた生態系の機能に依存しています。近年、生物多様性は急速に失われており、WWF のレポート（Living Planet Report）によると、1970 年から 2016 年までの期間で生物多様性の 68%が失われています。わたしたちには、現存する生物多様性を保全し、将来世代に豊かな自然の恵みを残す義務があります。

アパレル業界においては、綿花栽培や、ウール、カシミヤ等の生産のために家畜を放牧することで利用する土地や水、衣服の製造過程における排水等を通じて生物多様性に影響を与えています。ファーストリテイリングでは、事業が生物多様性に与えるこれらの影響を可能な限り回避・低減するとともに、生物多様性の再生・保全への取り組みを進めていきます。本方針は、ファーストリテイリングの生物多様性に関する取り組みについての基本的な方針を定めるものであり、ファーストリテイリングのすべてのグループ会社に適用されます。

２．各種方針・ガイドラインとの関係

本方針は、別途定める経営ビジョン、サステナビリティステートメント、環境方針をもとに、ファーストリテイリングの生物多様性の保全に関する取り組みについての方針を示すものです。また、生物多様性は、気候変動対応や水資源管理、廃棄物管理、化学物質管理等のその他の環境分野や、個別の原材料の調達方針（木材由来の商品および森林由来素材についての方針等）との関連が強いため、これらの分野における方針との整合性を確保しつつ、相乗効果の創出をめざします。

３．目標

生物多様性が人類にとってかけがえのない財産であることに鑑み、ファーストリテイリングのバリューチェーン全体において生物多様性への影響を回避・軽減させ、生物多様性の保全・再生を進めることで、長期的に生物多様性に対するネットポジティブインパクト※の達成をめざします。

※生物多様性に対するネットポジティブインパクト：生物多様性への正の影響が負の影響を上回っている状態

４．行動指針

4.1 法令遵守とイニシアティブへの積極的な参加

ファーストリテイリングは、持続可能な開発目標（SDGs）および昆明・モントリオール生物多様性枠組を支持し、事業活動を通じてその達成に貢献することをめざします。

また、バリューチェーン全体を含む事業活動を展開する国・地域における生物多様性に関する諸法令・規則の遵守を徹底し、かつ生物多様性の保全につながる各種イニシアティブへの積極的な参加を進めます。

4.2 生物多様性保全に関する取り組みの推進における基本的な考え方

◆AR3T フレームワークの適用

生物多様性の保全にあたっては、自然に関する科学に基づく目標設定（science-based targets for nature）イニシャルガイダンスで推奨されている AR3T（Avoid, Reduce、Restore &

Regenerate, and Transform）のフレームワークに則り、生物多様性への影響の低減および保全の推進を行います。具体的には、以下のような順序で生物多様性に関する取り組みを進めます。

影響の回避（Avoid）：保護価値の高い地域に悪影響を与えない、あるいは影響を未然に防ぐことで、生物多様性への悪影響が生じることをできるだけ回避します。
影響の低減（Reduce）：科学的な知見に基づき、生物多様性に配慮した認証制度の活用や負荷の小さい代替素材の活用等を通じて、生物多様性への影響を低減させます。
修復・再生（Restore & Regenerate）：影響が避けられない場合には、生態系を修復・再生することで、生物多様性への悪影響の相殺を図ります。
転換（Transform）：バリューチェーン上のステークホルダーへの教育や生産・製造方式の転換などを通じて、ビジネス全体をネイチャーポジティブに転換することをめざします。

◆科学的知見に基づいた取り組みの推進
生物多様性に関する科学的知見は年々積みあがっており、生物多様性の保全に関する取り組みを確実に推進するためには、最新の情報・知見をもとに取り組みの設計および実行が必要です。ファーストリテイリングは、生物多様性に関する取り組みを進めるにあたり、最新の科学的知見を収集し、可能な限り科学的知見に基づいた対応を行います。

4.3 事業と生物多様性の関係の把握

ファーストリテイリングでは、事業が生物多様性に影響を与えており、また同時に生物多様性およびそれが支える生態系サービスに大いに依存しているとの認識のもと、生物多様性のリスクアセスメントを実施し、事業活動と生物多様性の影響・依存関係の理解を進め、影響の回避、低減、ならびに依存先の生物多様性の保全等の活動に反映します。
ファーストリテイリングでは、コットンやカシミヤ、レーヨン等の原料生産に伴う土地の改変による影響や、コットン生産における農薬利用や繊維の染色・加工のプロセスにおける排水、洗濯時の排水（マイクロプラスチックの排出を含む）による水質汚染の影響に関する懸念が大きく、また、水資源の供給や土壌の形成、防災機能や気候の安定化等の生態系サービスに依存しています。ファーストリテイリングでは、これらの影響や依存の大きいプロセスに対して、特に注力して生物多様性保全の取り組みを進めます。

4.4 具体的な取り組みの推進

ファーストリテイリングでは、生物多様性の保全と両立させた持続可能なビジネスを構築し、生物多様性に対するネットポジティブインパクトを達成するため、以下の取り組みを進めます。より詳細な取り組み内容や目標、期限などについては、別途実行計画にて定めます（4.5）。

◆トレーサビリティの強化・確保およびデータの取得・記録
事業に関する影響を正確に把握するために、トレーサビリティを強化し、原産地情報について可能な限り農場レベルまで追跡可能にします。また、調達先の情報について、データを取得・記録する仕組みを整理し、生物多様性保全を進める情報基盤の構築を進めます。

◆生物多様性上のリスクの高い地域からの調達の回避

すべての原材料の調達について、生物多様性の観点からリスクの高いエリア（法的な保護区や希少種の生息地を含む）および水資源等の生態系サービスの喪失リスクが高い地域からの調達を回避します。木材由来素材の調達については、森林破壊につながる森林からの調達を回避し、森林破壊ゼロをめざします。

◆リスクの高い原材料について認証を取得

原材料について、サプライヤーとともに生物多様性に配慮した認証付きの原材料への切り替えを進めます。特に使用量が多く生物多様性への影響も大きいコットンについては、生物多様性に配慮したコットンへの切り替えを進めます。また、カシミヤについても、別途定めた当社の基準を満たすもののみを採用します。

◆リスクの高い原材料の影響を低減・リスクの低い原材料へ転換

生物多様性への影響が大きい素材については、影響が低い代替素材への転換を図り、リジェネラティブ農法※などを採用する農家からの調達比率を高めます。先進技術や新素材の探索、開発および投資を積極的に進めます。

※農地の土壌を健全に維持するだけでなく、土壌を修復・改善しながら自然環境の回復に繋げることをめざす農法

◆サプライヤー向けスタンダードの作成・開示

生物多様性への配慮事項についてサプライヤー向けの基準を設定し、サプライチェーン全体での配慮を徹底します。

◆自然の再生・創出活動の展開

コットンやカシミヤ等の原材料の生産地や、製造加工拠点の周辺地域など、生物多様性への影響が生じうるエリアにおいて、生態系の再生や保全の活動を進めます。

◆サプライヤーへの資金・教育等支援

生態系の保全、リジェネラティブ農業などへの転換を行う農家への資金援助、また、サプライヤーに対し、生物多様性の重要性などに関する教育を行います。

4.5 実行計画の策定

生物多様性に関する取り組みについて、具体的に推進するための実行計画を策定します。実行計画では、定量的な目標・指標（KPI）の設定や、モニタリングの実施方針、個別のアクションプランなどを定めます。また、この実行計画はモニタリングの結果や個別のアクションの成果、生物多様性の状況に応じて定期的に見直しを図ります。

4.6 モニタリングおよび情報開示

ファーストリテイリングは、生物多様性に関する影響や依存の状況、保全に向けた取り組みの進捗等について、ステークホルダーと連携しながら、定期的なモニタリングを実施します。また、モニタリング結果については、ウェブサイトやサステナビリティ関連報告にて積極的に情報開示を行います。

4.7 社内外への生物多様性に関する教育・意識啓発の実施

ファーストリテイリングは、従業員や取引先、お客様に対して生物多様性のもたらす社会や事業への影響や保全の取り組みについて、意識啓発や教育プログラムの実施を積極的に進めます。

4.8 ステークホルダーとの協力

ファーストリテイリングの事業は、様々なステークホルダーとの関係のなかで成り立っており、生物多様性の保全は自社のみで達成できるものではありません。ファーストリテイリングは、サプライチェーン上の生産者、生産拠点周辺の住民、先住民族、NGO・NPO 等の外部団体、お客様等、関連するステークホルダーと協力して生物多様性の保全を進めます。

4.9 推進体制の構築

ファーストリテイリングは、生物多様性の保全を経営の重要課題の一つとして位置づけ、サステナビリティ部、生産、物流、販売、マーケティングなどバリューチェーンに関わる全ての部門が連携し、取り組みを推進します。また、経営と一体化した活動を適切な判断のもとに推進していくため、代表取締役を含む取締役、監査役、社外有識者、および、執行役員が出席するサステナビリティ委員会において、生物多様性の取り組みに関する方向性を議論、決定し、業務執行部門に対して、助言・勧告および監督を行います。ファーストリテイリンググループ全体でサステナビリティ活動を着実に実行していくため、サステナビリティ部を中心に、本部の関連部門および全世界の経営者と日常的に連携を図るとともに、海外の主要拠点にサステナビリティ担当者を置き、生物多様性保全の推進体制の強化を図ります。